教育長が語る Leader's VIEW

第3回

施策の効果を検証して理論化し、個に対応した「結果」を出す教育を

兵庫県 尼崎市教育委員会 教育長 松本 眞（しん）

長らく課題とされてきた基礎学力が向上しつつある兵庫県尼崎市。2018年度から、施策の効果検証にアセスメントを導入するなど、次々に教育施策を打ち出しています。そのねらいを、松本眞教育長に聞きました。

まつもと・しん　文部科学省において、教育基本法改正や高等教育行政、教員養成などを担当し、2018年度から現職。

市を挙げた学力向上施策で学力調査の結果が向上

尼崎市は、阪神工業地帯に属する製造業の町として、戦後日本の経済発展を支えてきた歴史を持ちます。ただ、小さな町工場が多いため、市民の暮らしは景気動向に左右されやすく、阪神・淡路大震災やリーマンショックなどの様々な要因により、経済的に厳しい時期が続きました。そうした地域の状況は教育現場にも影響があり、基礎学力の向上は本市の大きな課題となってきました。

そこで、子どもたちにまずは基本的な生活習慣や学習習慣を定着させようと、先生方が地道に指導を続けてきました。その成果が出て、子どもたちは落ち着いて学びに向かうようになり、近年は次のステップとして学力向上の施策に取り組んでいます。

その１つは、各校がチャレンジしたい教育活動についてプレゼンテーションを行い、その内容によって予算を配分する施策です。例えば、ディスカッション中心の授業を実践するために指導補助員を配置する、家庭学習の不足を補完するために放課後指導員を増員するなどです。様々なアイデアが提案され、実践に移されて、効果を上げてきました。

ほかにも、教職経験者や大学生の協力を得て放課後に学習の個別支援を行ったり、全小学校に学校司書を配置して読書環境を整えたり、さらにはスクールカウンセラーやソーシャルワーカーを配置して心のケアを強化したり、市を挙げて様々な施策に取り組んできました。文部科学省「全国学力・学習状況調査」のここ数年間の結果からは、それらの施策の成果が見られます。もちろん課題はまだありますが、確かな手応えを感じています。

小・中学校を悉皆で調査し、個々の学力や意識を捉える

今、力を入れているのは、各校が努力して取り組む中で成果を出してきた実践について、エビデンスをきちんと整理し、その方法を理論化して、他校に広げやすい形にすることです。そこで、2018年度、各種施策と学力向上との関係について、効果検証を始めました。現在、指導主事を中心に仮説を立てて研究しているところです。

検証方法で中心となるのは、ベネッセとの包括協定の一環として導入した「あまっ子ステップ・アップ調査」です。同調査を活用して、教育活動に関する検証サイクルを確立しつつ、児童・生徒の学力と生活実態を継続的に把握しようとしています。その施策は、国が各自治体に求めているEBPM*の考え方に基づいています。

調査は、年１回、小学校では１～６年生の全児童に国語と算数、中学校では１・２年生の全生徒に国語・数学・社会・理科・英語の学力調査を行い、加えて生活実態調査も実施します。それにより、子ども一人ひとりの学力や意識の変化を継続的に把握し、学校や教員が個々の状況に応じた支援が可能になります。教育活動の目標は、すべての子どもの資質・能力を伸ばすことにありますが、そのためには、そのような個への対応は不可欠なものと考えています。

さらに、同調査のデータは、首長部局が管理し、複数の外部専門家がかかわる「尼崎市学びと育ち研究所」が、学力だけでなく、首長部局が保持する様々な統計データとも統合し

＊ Evidence-based policy making の略で、証拠に基づく政策立案のこと。

て詳しく分析し、中長期的な教育施策の立案に活用していきます。

「結果」にこだわり 家庭や地域への責任を果たす

エビデンス重視の教育活動を通してこだわりたいのは、しっかり「結果」を出すことです。「学校ができることは限られている」という声もよく聞きます。それは、確かにもっともな考えであり、学校は家庭や地域との連携をますます強めていく必要があります。

その一方で、子どもは1日7時間以上を学校で過ごし、年間約1000時間もの授業を受けています。学校の果たす責任が、非常に大きいことには変わりません。教育活動を提供して終わりではなく、子ども一人ひとりのどのような力を、どれくらい伸ばしたのかという明確な結果を出すこと。それを分かりやすく市民に示すことが、家庭や地域社会に対する責任を果たし、「この学校に通ってよかった」と、信頼関係を強めていくことにつながるでしょう。

学校教育に対する市民の理解が深まれば、財政面の理解も得やすく、教育環境をさらに充実させることができます。教育長が黙っていては、教育環境は変わりません。国での業務経験も踏まえて、私自身が動き続けていきたいと思います。

社会の変化に対応して 外部との連携をさらに強化

教育現場を担う先生方には、「自分が学校を変える」という意識で教育に向き合ってほしいと願っています。学制の公布以来、先人がその時代に応じて維持したり改善させたりして、現在の学校教育は形づくられてきました。我々も、今の時代に対応して、教育活動を変化させていかなければいけません。子どもたちは未来を生きていきます。常に先を見据えて、教育を変えていく姿勢が求めらると考えています。

先生方は責任感が強く、自分たちだけで何とかしようと思われるケースが多いように見受けます。ただ、今は、学校が企業や高等教育機関、NPO法人などと連携し、学校や教育委員会だけでは実現できないことに取り組んだり、業務を効率化させたりすることが、教育活動の鍵になると考えています。

これからも時代は大きく変化し、子どもたちは厳しい状況に直面することもあるでしょう。そうした時に必要なのは、前向きな姿勢や柔軟さを失わず、タフに生き抜く力です。自分の強みと弱みを認識し、それを人生に結びつけてねばり強く努力できる子どもたちを育てていきたいと思います。

尼崎市 プロフィール

◎兵庫県東南部、大阪平野の西部に位置する。1947年に旧園田村を編入し、ほぼ現在の市域が形成され、2009年に中核市へ移行した。近畿地方の墓制を初めて明らかにした田能遺跡や国指定重要文化財の開山堂などの歴史的遺産を有する。

人口 約451万人　**面積** 50.72㎢　**市立学校数** 小学校:41校、中学校:17校　特別支援学校:1校　**児童・生徒数** 約3万1000人　**電話** 06-4950-5654　**URL** http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/shisei/siyakusyo/section/kyoiku/